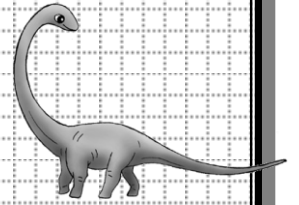


2014年7月

地質 — No. 9

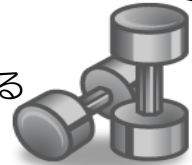
けんぱくものしりシート

タカハシホタテ



いま やく まんねんまえ しんせいだいしんだいさん き ぜん き せんしんせい いわてけんなんぶ せんだい
今から約500万年前（新生代新第三紀前期鮮新世）の岩手県南部には、仙台
わん つつ うみ ひろ うみ
湾から続く海が広がっていました。この海にはクジラやイルカといっしょに、
タカハシホタテがすんでいました。

タカハシホタテの右側のからは、おとなになるとどんどん
あつ まる りょうほう おも あ
厚くなり、丸くふくらみます。両方からの重さを合わせると、1kgをこえるものもあります。



ひだりがわ
左側のからは
うすく、今の
ホタテガイの
ように平らに
なっています。

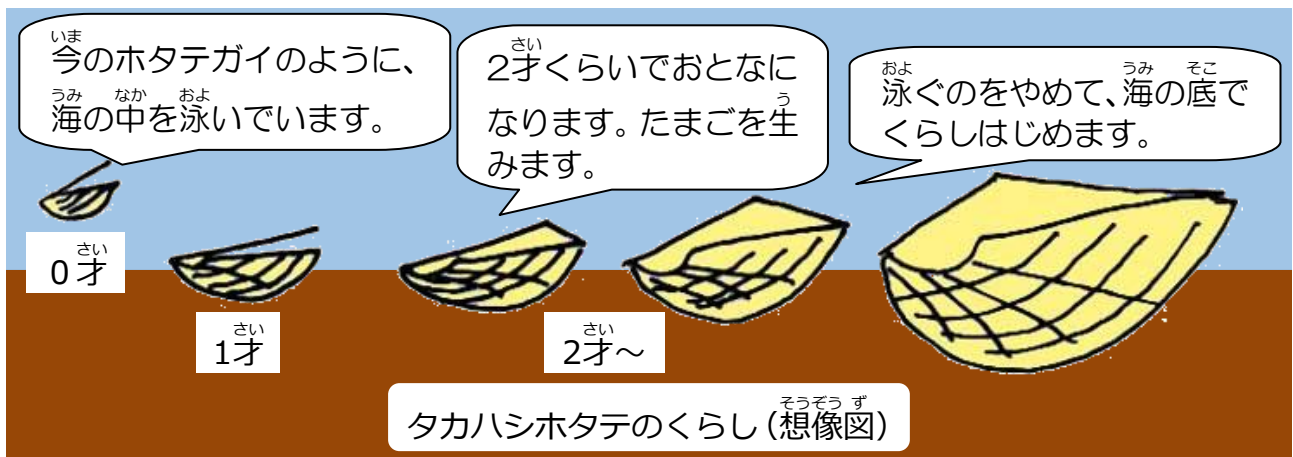


タカハシホタテ
Fortipecten takahashii

ひらいずみちょうなんごうねずみざわ
平泉町南郷鼠沢

しんせいだいしんだいさん き ぜん き せんしんせい たつ くちそう
新生代新第三紀前期鮮新世 竜の口層

タカハシホタテの子どもは海の中を泳いでいましたが、おとなになると泳ぐのをやめてしまいました。どうしてタカハシホタテは、大きくなると泳ぐのをやめてしまったのでしょうか？



タカハシホタテは2才くらいでおとなになります。そして、たまごを生むことができるようになると、海の底でくらしはじめます。子孫を残すために、どろの中に右側のからをうめて、じっとしていることを選んだのかも知れません。敵におそわれても泳いでにげることはできませんが、厚いからで身を守っていました。また、丸くふくらんだ右側のからには、たくさんのたまごをたくわえていたと考えられています。

タカハシホタテは、約700万年前から100万年前（新生代新第三紀後期中新世から第四紀前期更新世）まで、東北地方や北海道、さらに北の冷たい海にかけてすんでいました。また、500万年前には、一生を通して海の中を泳ぐホタテガイもあらわれます。やがて、地球全体の気温が下がったことにより環境が変わったため、タカハシホタテは絶滅しました。



参考にした本 『地質ニュース第632号』 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査センター 2007年/
『時をこえて十勝の川を旅しよう!』 国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 2008年 他

らいげつ がつ
来月(8月)の
けんぱくものしりシートは
こうこ
考古-9だよ!
おたのしみに!



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

モッチャン